

団体名：南城市立佐敷小学校	連絡先 TEL：098-947-6212 Eメール：sasho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
---------------	--

1 実践事項 (①) 「南城市立佐敷小学校の取り組み」

2 実践内容

【保・幼・こ・小 連携】

◎スタートカリキュラム

本校では、幼稚園・保育園等から入学してくる児童がギャップを感じずスムーズに小学校生活に
適応できるよう、今年度から、就学直後の特別カリキュラムとして『佐敷小学校スタートカリキュ
ラム』を計画・実施し、連携する保育園・幼稚園等から参観者をつのり、授業や学校生活の様子を
公開した。目的（何のために）及び実践内容（何を）と手立て（どのように）について1学年を中心
に各クラスそろえる実践を意識して取り組んだ。

【小・中 連携】

本校では、算数科・外国語科の指導力向上に向け、地区学力向上推進室開催の各研修・公開授業
に職員を派遣した。

◎小中連携合同研究会（算数・数学）@長嶺小参観（7月4日）

◎小中連携合同研究会（外国語）@大里南小参観（9月15日）

◎小中連携合同研究会（外国語）@佐敷小 代表授業 金城祐大教諭（5年2組）（9月28日）

◎小中連携合同研究会（算数・数学）@馬天小参観（12月8日）

【地域・関係団体との連携】

◎全体での地域・関係団体との連携

民生委員との顔合わせ・情報交換会(1学期)

広報誌発行(PTA 広報部：各学期)/童話お話大会(PTA 総務部：2学期)

地区陸上競技大会・体育学習発表会(PTA 保体部：2学期)

○低学年

水遊び・水泳学習における保護者見守りボランティアの活用等
交通安全教室（1学期：与那原警察署）

○4年

尚巴志アウトリーチ事業(4月～南城市文化協会)

三線クラブの立ち上げ((5月～講師：大城貴幸さん)

福祉体験学習（1学期：アイマスク・車いす・点字・白杖体験/南城市社会福祉協議会）

仲伊保公民館（10月4日 地域の防災を守る人々）

環境教育(SDGs ワークショップ(2学期) 講師：ミライラボより講師来校)

○5年

田植え体験（1学期）

環境教育(SDGs ワークショップ(2学期) 講師：ミライラボより講師来校)

知念漁港見学(2学期：地域の自然環境・第一次産業に携わる人々)

自然体験ウォークラリーin 玉城青少年の家(2学期：保護者ボランティア)

非行防止教室（2学期：与那原警察署）

○6年

環境教育(自然科学エネルギー(2学期) 講師：琉球大学工学部より講師来校)

着衣水泳出前授業(7月14日)

体育学習発表会エイサー演舞の地謡（琉球古典音楽野村流松村統絃会、沖縄民謡協会より講師来校）



4 成果

- ・保護者地域・関係団体の教育参加意識が高まり、学校・過程・地域社会の相互の協力のもとに、課題や学習に主体的に取り組もうとする児童を地域をあげて育成しようとする雰囲気醸成することができた。
- ・教職員自身が生涯学習者として生活学習の理念の実現に寄与する観点から、より地域の教育資源に対する理解を深め、自己啓発を図ることができた。

5 課題

- ・引き続きコロナの影響が懸念される状況だとしても、子どもたちの学びや保護者・地域の学校教育参画をとめない方法考案していく必要がある。
- ・地域の人材を学校支援ボランティアとして効果的に活用する上で必要となる事前の打ち合わせ等に係る時間の捻出が難しい。

南城市立佐敷小学校の実践

- 1 実践事項（選択テーマ①「保・幼・こ・小・中・高・地域・関係団体との連携（幼小・小中・地域）」）
タイトル：『南城市立佐敷小学校の取り組み』

- 2 実践内容及び説明資料

【保・幼・こ・小 連携】

本校では、保・幼・こ・小連携活動計画として以下のねらいと基本方針及び年間計画を年度当初に全職員で確認し、1学年を中心とし実践に臨んだ。

1. ねらい

- (1) 小学校との連携を図ることによって、保育園・幼稚園から小学校への接続を円滑にする。
- (2) 教師間の交流を通して、幼児教育と小学校教育の相互の教育を理解し、発達や学びの連続性を図る。

2. 基本方針

- (1) 日常的な連携や交流活動を通して、幼児と児童が共に学び合える場にする。
- (2) 教師間の交流（研修会）等を通して、相互の教育の共通理解を深める。
 - ・情報の共有や意見交換を密に行うと共に、授業や保育の参観等を実施する。
- (3) 幼児期から児童期への発達や学びの連続性を図る。
- (4) 無理のないような計画を立て、継続的に保幼小連携が図れるようにする。
- (5) 公立幼稚園が小学校区の結節点となり、保幼小連携の交流を密にする。

3. 実践具体事例

◎スタートカリキュラム

本校では、幼稚園・保育園等から入学してくる児童がギャップを感じずスムーズに小学校生活に適應できるよう、今年度から、就学直後の特別カリキュラムとして『佐敷小学校スタートカリキュラム』を計画・実施した。また、先述した実施計画の日程で、連携する保育園・幼稚園等から参観者をつのり、授業や学校生活の様子を公開した。目的（何のために）及び実践内容（何を）と手立て（どのように）を以下の3点として1学年を中心に各クラスそろえる実践を意識して取り組んだ。

《佐敷小学校スタートカリキュラムの全体像》

① 全体のイメージと考え方（何のために）

② 単元配列表（何を）

③ 週案作成のためのスタンダード（どのように）

①全体のイメージと考え方（何のために）

◎基本的な考え方

- ・ひとり一人の子どもの成長の姿から、デザインする。
- ・子どもの発達の特徴を踏まえ、時間割や学習活動を工夫する。
- ・生活科を中心とした、合科的・関連的な指導の充実を図る。
- ・安心して、自ら学びを広げる学習環境を整える。

◎育てたい子どもの姿

- ・安心して、自己発揮する子ども。
- ・他者との関わりを楽しみ、それを広げようとする子ども。
- ・自分の思いや願いをもち、夢中になって学ぶ子ども。

◎「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」の活用



・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、存分に発揮できるような指導を工夫する。

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として、ひとり一人の子どもや学級・学年の様子を見とる。

◎佐敷小学校スタートカリキュラムの柱

- ・生活科を中心とした、合科的・関連的な指導
- ・弾力的な時間割の設定
- ・場の設定（フロアマットの活用）

※教室にフロアマットを敷き、のんびりタイムやなかよしタイムで活用した。



	4月第1週	4月第2週	4月第3週	4月第4週	5月以降
朝の時間	のんびりタイム	のんびりタイム	のんびりタイム	のんびりタイム	のんびりタイム
1校時	なかよしタイム	なかよしタイム	なかよしタイム	なかよしタイム	わくわくタイム
2校時		わくわくタイム	わくわくタイム	わくわくタイム	わくわくタイム
3校時	わくわくタイム	わくわくタイム	わくわくタイム	わくわくタイム	わくわくタイム
4校時		わくわくタイム	わくわくタイム	わくわくタイム	わくわくタイム
5校時	※4月2週目までは午前中授業になります。				

※次ページ
『遊びや生活・学習の4種型』
の移行スケジュール

合科・関連させた教科を徐々に分化し、教科等学習へ移行

③週案作成のためのスタンダード（どのように）

◎週の計画と時間配分を検討する

弾力的な時間割の設定の工夫をした。生活リズムや一日の過ごし方に配慮するために「なかよしタイム」を朝の会から1時間目を連続した時間として設定したり、ぐんぐんタイムは10分～15分程度の短い時間を活用したり、集中力が続きやすい2時間続きの学習活動を位置づけたりする工夫を取り入れた。

※本校では、①4月～連休頃まで と ②2学期始めの2週間 に設定した。

◎佐敷小学校の単元配列表・週案のポイント

単元配列表

- ・スタートカリキュラムの期間を限定し、4月から5月連休頃までの1カ月間とした。
- ・合科的・関連的な指導を徹底的に精選し、学習成果が上がる指導を共通実施した。
- ・合科的・関連的な指導は二重線と矢印で、分けて記載した。
- ・生活科を真ん中に位置づけ表現しやすいように国語、図工、音楽などをその前後に配置した。

週案

- ・「仕方・使い方」指導の脱却を図り。園での経験を活かし、教え込まないよう工夫した。
- ・なかよしタイムを見直し、思い切った時間の確保を行った。
- ・わくわくタイム（学校探検）を充実させた。みんなためあてを立てて実行し、次のめあてを立てる学習の基本とさせた。

The image shows two curriculum planning tables. The left table, titled '週案作成のためのスタンダード の変形みりわけ～（第1週目）', is a detailed weekly schedule with columns for '曜日' (Day of the Week) and '時間' (Time). It lists subjects like '国語' (Japanese), '算数' (Math), '音楽' (Music), and '図工' (Art) with specific activities. The right table, titled '週案作成のためのスタンダード (1)4月～（第1週目）', is a similar schedule but highlights 'なかよしタイム' (Nakayoshi Time) and 'わくわくタイム' (Wakuwaku Time) in pink. Both tables include a '授業時数表' (Classroom Time Table) on the right side, showing the total time for each subject.

【小・中 連携】

本校では、算数科・外国語科の指導力向上に向け、地区学力向上推進室開催の各研修・公開授業に職員を派遣した。

◎小中連携合同研究会（算数・数学）@長嶺小参観（7月4日）

◎小中連携合同研究会（外国語）@大里南小参観（9月15日）

◎小中連携合同研究会（外国語）@佐敷小 代表授業 金城祐人教諭（5年2組）（9月28日）

◎小中連携合同研究会（算数・数学）@馬天小参観（12月8日）

【地域・関係団体との連携】

◎全体での地域・関係団体との連携

民生委員との顔合わせ・情報交換会(7月1日)

広報誌発行(PTA 広報部：各学期)/童話お話大会(PTA 総務部：2学期)

地区陸上競技大会・体育学習発表会(PTA 保体部：2学期)

◎各学年における地域人材・教育資源を活用した取り組み

○低学年

水遊び・水泳学習における保護者見守りボランティアの活用等

交通安全教室 (1学期：与那原警察署)



○4年

尚巴志アウトリーチ事業(4月～南城市文化協会)



三線クラブの立ち上げ((5月～講師：大城貴幸さん)

福祉体験学習 (1学期：アイマスク・車いす・点字・白杖体験/南城市社会福祉協議会)



仲伊保公民館 (10月4日 地域の防災を守る人々)



環境教育(SDGs ワークショップ(2学期) 講師：ミライラボ：重信さん)

○5年 田植え体験（1学期）

環境教育(SDGsワークショップ(2学期) 講師：ミライラボ：重信さん)

知念漁港見学(2学期：地域の自然環境・第一次産業に携わる人々)

自然体験ウォークラリーin 玉城青少年の家(2学期：保護者ボランティア)



非行防止教室（2学期：与那原警察署）

○6年

環境教育(自然科学エネルギー(2学期) 講師：琉球大学工学部 浦崎直光さん)

着衣水泳出前授業(7月14日)



体育学習発表会エイサー演舞の地謡（琉球古典音楽野村流松村統絃会、玉寄英一さん、城間勇紀さん、沖縄民謡協会運天千敏）

3 成果

- ・保護者地域・関係団体の教育参加意識が高まり、学校・過程・地域社会の相互の協力のもとに、課題や学習に主体的に取り組もうとする児童を地域をあげて育成しようとする雰囲気醸成することができた。
- ・教職員自身が生涯学習者として生活学習の理念の実現に寄与する観点から、より地域の教育資源に対する理解を深め、自己啓発を図ることができた。

4 課題

- ・幼小連携における期間限定で実施したスタートカリキュラムにて、教科の進度計画が当初予定より遅れる中、コロナ等長期の欠席で学習にさらに遅れが生じる児童が少なからずいたため、そのフォローアップに係る時間と教材準備に追われることがあった。
- ・保護者・地域連携に関して、引き続きコロナの影響が懸念される状況だとしても、子どもたちの学びや保護者・地域の学校教育参画をとめない方法考案していく必要がある。
- ・地域の人材を学校支援ボランティアとして効果的に活用する上で必要となる事前の打ち合わせ等に係る時間の捻出が難しい。